

パトリアーレSABAE

THINKING・DESIGN

キックオフミーティング

2025.6

キックオフミーティングでは、事業所それぞれが地域の現状や課題について意見を出し合いました。その中で、「1日10分の運動習慣を広げたい」「サッカーの競技人口を増やしたい」といった前向きな目標が共有されました。

一方で、「気軽に運動できる施設が少ない」「そもそも日常的な運動習慣が根づいていない」といった課題も明らかになりました。これらを踏まえ、身近な場所や短い時間でも体を動かせる環境づくりに取り組んでいく方向性が決まりました。



▲みんなでアイデアを出している様子



▲出てきたアイデアや意見

場所づくり × 健康習慣

2025.7~

「ボール遊びができる場所が少ない」という社会課題と「1日10分の運動習慣を広げたい」という課題を両方からアプローチできるように、小さな面積でも設置できる人工芝の「スモールプレイグラウンド」を増やし、駐車場や空き地を活用して気軽に体を動かせる環境をつくる方針を定めました。まずは9月27日・28日の「さばえまつり」で実践し、その実績をもとに支援企業を募りながら、市内のプレイグラウンドを可視化し、日常的な運動機会の創出につなげる事を目標としました。

やったこと

- ☑ パトリアーレSABAEは運動内容の精査
- ☑ デザインチームはコンセプト・ネーミング・応募フライヤーや仕組みづくり!



▲決定したネーミング

▲空き地活用の仕組みづくり

コミュニティづくりと遊び場認定

2025.11~

浮き彫りになった2つの課題の解決に向かうため、議論を重ねました。1つは原点に立ち戻り、パトリアーレSABAEのリソースを活かした「親子サッカー教室」「女子サッカー教室」を開催し、場づくりよりもコミュニティづくりを優先。また、鯖江市をスポッチャのように楽しめるようになれば必ず運動習慣に近づくとの意見から、アンケートを実施し、鯖江市民がどこで運動しているか検証を行いました。

やったこと

- ☑ 「親子サッカー教室」「女子サッカー教室」の開催とチラシ制作を含めた広報活動
- ☑ 鯖江市からアンケートを実施し、遊び場の検証。アンケートによって新たなフィールドは見つかったが、可視化することが次の課題となった。

未来に向けた健康への関わり方 future

当初の課題定義は明確で方向性も共有できていましたが、いざ実装段階に入ると、「運動への心理的ハードル」「フィールドの確保」「運営を支える人員の確保」など、乗り越えるべき具体的な障壁が多くあることも見えてきました。特に、継続的に場を運営していくための体制づくりや、日常的に使えるスペースの確保は簡単ではないテーマです。

こうした現実的な課題を踏まえつつも、まずはクラブ運営や地道なコミュニティづくりを継続し、少しずつ仲間と理解者を増やしていくことが重要だと考えています。あわせて、幼稚園や地域団体との連携を進めたり、「スポッチャ」のような体験型企画を文化的なイベントとして実装し、具体的な実績を積み重ねていくことを今後の目標とします。

小さな成功体験を重ねながら、運動が特別なものではなく、日常の中に自然にあるものへと変えていき、その積み重ねによって、「運動ができるまち鯖江」を実現していきたいと考えています。

ACTION

2025.9~ さばえまつりでプレイベント

タイムトライアルや時間ぴったり運動など、自然と体が動くような遊びを加えた2種類の運動を展開しました。



結果 内容がわかりづらく、参加のハードルが高いという結果に。また、開催する側のハードル高く、人員が確保できないという課題が浮き彫りになりました。

場づくり

コミュニティづくり

ハードルを下げた場づくり

遊び場の認定

2026.1~ 「親子サッカー教室」「女子サッカー教室」の開催

当初こそ集客に苦しみました。徐々に認知を広げて参加者が増えていきました。2月1日の雪の酷かった開催日も親子サッカーに5組12名以上、女子サッカーにも2名が参加しました。普段、運動しない親たちも楽しく運動する姿が見られた。また見に来て参加していない親たちもコートで（寒すぎて）ストレッチを行うなどの自然発生的な運動が行われていました。



現場の声

口コミによって徐々に広まっていきました。コーチの教える内容がとても素晴らしかったのもその一因となっていると思います。ただ、やはり運動へのハードルが高いというのが印象としては残りました。今後はフィールドを確保できる状況と、運動へのハードルの下げ方をもっと模索していきたいです。

デザイナーからのコメント

SEWI' デザイナー

スペースの制約や運営体制など、乗り越えるべき壁は少なくありません。しかし、提供しているプログラムや教えている内容そのものに確かな価値があり、実際に体験してもらえれば必ず広がりが見られるという手応えも感じています。そのため、まずは短期的に成果が見える実績づくりにも取り組みながら、着実に歩を進めていきたいと考えています。第2回、第3回の講演でも繰り返し語られていたように、やはり鍵となるのは「コミュニティづくり」。単発のイベントではなく、人と人のつながりを育みながら、継続して関われる土壌をつくるのが重要だと感じました。

参加事業所Information



「故郷から世界へ」を合言葉に掲げるサッカークラブ。未就学児から社会人まで巻き込みながら、地域から挑戦する選手育成とコミュニティづくりを目指しています。



取り組んだ「さばえ7つの健康習慣」



1日10分の運動習慣『適正体重』をキープ

「さばえ7つの健康習慣」コラボプロジェクト

